

IV. 平成23年度前期 南紀熊野サテライト開講授業

H23前

1. 大学院授業科目

授業科目	農村漁村探訪 -和歌山の「今」と活性化		
単位数	2	授業形態	講義およびフィールドワーク
担当教員	湯崎 真梨子		
実施日・時間	4月8日(金) 19:30~20:50		
	4月9日(土) 10:00~17:00		
	4月15日(金) 18:30~20:50		
	4月16日(土) 10:00~16:00		
	4月22日(金) 18:30~20:50		
	4月23日(土) 10:00~16:00		

【講義内容】

農山漁村を対象とした、地域活性化にはふたつの側面があります。過疎・高齢化や限界集落などで語られる「暗い」部分と、グリーン・ツーリズムやブルー・ツーリズムなど、都市と農山漁村が、文化、食、伝統、環境などの地域資源を媒介にして、多様な交流をしながら、観光や地域づくりを行おうという「明るい」部分です。

農山漁村ツーリズム論が政策の中に登場して、すでに20年の歴史を刻もうとしています。現在の地域の「姿」はいかなるものなのでしょうか？ 全国的に進行する限界集落については、今後10年間に2千数百の集落が「自然消滅」するというデータ(2006年国土交通省)もあります。農山漁村の多面的な価値が、あらためて注目されている中で、この現実も見過ごすことができません。

この講義では、以上のような、地域が抱える二面性を前提に入れ、和歌山県の現状を探り、地域の「次のありよう」を考察していきます。

【実施授業内容】

- 1週目) 農村研究；地域づくりの歴史と内発的な発展について、事例を踏まえながらの整理と問題意識の共有をはかります。
- 2週目) 漁村研究；田辺市近郊漁村の調査研究。事前学習により調査課題を共有した後に、現地調査を行います。
- 3週目) 調査発表ととりまとめ。今回の調査と学術論文を資料としながら、地域づくりの「次」への提起と考察を行います。

【テキスト・教材】

授業時に適宜配布します。

【事前学習】

第1回授業までに、各人の「地域活性化」に関する問題意識を整理して、授業に臨んでいただきたい。経験や体験に基づくものでけっこうです。初日には各人に発表をしてもらいます。講師と受講者ができるだけ問題意識を共有し、ディスカッションの中から、共に地域の「次」を展望したいと考えます。

【注意事項】

現地調査は予定です。第1週目にも現地調査を検討中ですが、未定です。現地調査についての、日程、交通・経費など詳細は、具体的に確定後、サテライト・オフィスを通じてお知らせします。